

令和 7 年度

# 学校関係者評価報告書

令和8年3月31日

しらかわ介護福祉専門学校

## 1 学校関係者評価委員

種別	所属	役職
介護施設等関係者	特別養護老人ホーム	施設長
地域住民	学校所在地町内会	会長
校長が必要と認める者	在宅医療・介護連携支援センター	事務長

2 評価実施日 令和8年3月19日（金）

3 評価対象 令和7年度（令和8年3月10日実施）の学校自己点検評価を対象とした。

## 4 各評価項目について

### 1 教育理念・目的・目標

#### ① 教育理念、目的及び目標の設定等

本校の教育理念は、生命を尊重する豊かな人間性を培い、福祉に関する専門的な知識・技術をもって、地域社会に貢献できる人材の育成を目指すことを理念とし、福祉分野において社会的ニーズに対応できる人材の育成を目指している。社会情勢に合わせ、留学生の受け入れ態勢等について、教育理念等を踏まえ、検討を重ね評価していく。

引き続き、学校パンフレットやホームページに教育理念等を掲載し、オープンキャンパスや高校訪問等、あらゆる機会をとらえ広く周知するとともに、教育理念、目標等を教職員が共有し、学生に対し入学後のオリエンテーションや授業の中で教育理念等について触れ、それに則った教育活動を行う。

### 2 教育課程、教育の実施、学修成果

#### ① 教育課程の編成と授業科目

教育理念、教育目標を教職員が共有し、教育課程を体系的に編成し、系統性・段階性に配慮した授業科目を配置してきた。教育課程編成、実施方針は令和8年2月に明文化した。今後も教育理念、教育目標を教職員が共有し、教育課程を体系的に編成し、系統性・段階性に配慮した授業科目を配置する。

#### ② 教育の実施

講義・演習の評価は教員一人で駆け込まず、教員間で情報を共有し、対応している。実習の評価に関しては、担当教員と実習指導者との評価のすり合わせを行っているが、評価者によってばらつきがでている。特に長期実習でつま

ずいている学生に対する評価は、担当教員と実習指導者とのすり合わせを行い学生が納得できるように丁寧に対応していく。

### ③ 単位・卒業認定

入学時より単位取得については機会があるたびに説明を行い、成績不良者への個別面談や個別指導等、全員卒業に向けて指導を行っている。留学生は認識不足もあるため、単位取得に向けた理解を促すために今後も工夫して丁寧に指導する必要がある。

### ④ 学修成果目標の達成状況

就職支援では、ハローワークでの講座開催の支援や、地元企業を中心に就職説明会を行うことで、学生が積極的に自分の進路に向けて活動できるように環境を整えている。国家試験の合格率では、日本人は100%で推移しているが、留学生の合格が達成できていないことが課題である。留学生の国家試験合格に向けて、留学生支援担当の専門員や国試対策の工夫を継続して行っていく。

今後も、入学時より就職や国家試験合格の意識をもって実習や学校生活に取り組むように継続的に働きかけていく。

## 3 学生の受入れ、学生支援

### ① 学生募集及び入学者の選抜、収容定員の管理

介護福祉士という明確な目的を持った学生を受け入れる、という方針のもと、学生募集を行い選考している。しかし、介護を目指す学生が少なく、定員を満たない状況が続いている。一方、外国人の希望者が増えているが、本校においては、身分を保証する支援法人があることを条件にしている。支援法人の拡大が課題である。

日本人の学生の受け入れを優先しながら、留学生の受け入れを募集要項により、選考基準、方法を定め入学者の決定を行っていく。

### ② 自主的な学習等の促進に対する支援

入学前の自主勉強については、実施後のフォローが十分できていない。成績不良者については、保護者にも現状把握と今後の見通しについて説明することで、単位取得に向けて家庭内でも協力していただいている。今後実施方法や役割分担等を検討していく。成績不良者については、今後も保護者を踏まえた面談を実施し、現状について理解を促すことが、学生の単位取得への意識が向上すると考えられるので継続していく。留学生には、週1回専門員による補習授業が組まれており、1年生は授業での補足説明や基礎知識の修得、2年生は国家試験合格を目標に実施している。実施開始から1年であり、効果と今後の方向性について調整が必要である。留学生支援については、効果的な方法と実施しての評価を専門員と相談しながら今後の方向性を決めていく

### ③ 多様な学生に対する支援

合理的配慮が必要な学生や留学生などに、学習状況の確認や、困っていることがないか適宜声をかけている。また、非常勤教員非や実習先とも情報共有を心がけている。しかし、合理的配慮が必要な学生でもそれを受け入れていない学生及び保護者の対応には苦慮している。

留学生については保証人となっている施設等と生活面【体調不良時、各種手続き（ビザ・年金・健康保険等）】の対応を含め役割分担を行い、協力しながら留学生のサポートを行っていく。一方、診断がついていない又は、障害を受け入れていない学生及び保護者の対応には苦慮している。

留学生については、生活のサポートを含め、受け入れ法人と連携を取りながら支援を行っているが、今後受け入れ法人が増えていくことで、さらなる連携強化が必要。

### ④ 学生生活に関する支援

カウンセラーを配置していないが、看護師の資格を持つ専任教員を配置している。相談体制については、担任が中心となって学生の相談を受けている。担任が一人で学生を抱えて行かないように、校長・副校長などにも相談しながら、全員で対応するようにしている。しかし、様々な事情を抱える学生も見られることから、適切な対応について悩む事例もある。今後、相談体制を学生及び教職員が共有し、周知、運用していく。個人面談を行い、ストレスなども含め健康状態の確認を行っていく。経済的側面については、学生の世帯や所得状況を把握し、学費のサポートに向けた支援を実施し適切な周知、運用を図っていく。

## 4 教育実施組織・教員

### ① 教員の配置、募集、採用

非常勤教員とは、学生評価を踏まえて次年度に必要な授業計画について話し合いを持っている。重点的に教授してもらいたい事項や学生の様子など、情報共有しながら進めている。今後留学生も増えてくることで、非常勤教員との連携や情報共有に力をいれていきたい。

### ② 教員の組織編成等

各人の役割分担が明確になっていることで、責任をもって取り組んでいる。全員で考える運営を心がけている。

教職員の人数が6名と少人数のなか、今後留学生が増えることでの事務手続きの増大が見込まれる。現在の人数で運営していくことに不安がある。

今後増えると考えられる事務手続きの整理を行い、役割分担の見直し等行う。

### ③ 教員の資質の向上

研修などに参加した場合、情報を共有し教育活動に生かしている。授業は学

生による評価を参考にしながら、自己評価を行い授業の改善に努めている。また、市と連携し介護イメージアップ事業では、アンケート集計し事業の評価を行っている。今後も市と連携し事業評価を継続させる。

教員の資質向上のため、必要な研修等は計画的に受講する。自主的な勉強会等（介護福祉士主催・現場の勉強会等）には、積極的に参加する。

## 5 教育環境

### ① 教育環境の整備

学生に応じたスペースは十分に確保され、備品・設備についても定期的な点検を行っているが、老朽化が懸念されるところがあることから、計画的に更新し安全確保に務める必要がある。

図書室は、パソコン授業の教室にもなっており、この教室を利用した「電子図書」の導入などの検討も必要と考える。従来の図書と「電子図書」に関し利用及び導入方法の検討を行い、学生の読書離れを防ぐ取り組みを行う。

### ② 安全対策、防災組織

「危機管理マニュアル」では、学習活動、登下校、健康、問題行動等、災害、施設設備、教職員、財務、情報、業務執行に分類し危機管理にあたっている。

「危機管理マニュアル」を「学校安全計画」に位置付け、内容等について点検していく。

### ③ 施設・設備等の点検・改善等

学校設備については老朽化設備を調査し年次の購入計画を作成のうえ予算要求して行く必要がある。現行どおり施設の管理者へ補習予算を計上していただくが、大規模な修繕箇所が発生した場合の対応（補修予算の確保）に懸念が残る。

## 6 教育活動の基盤と改善・向上の取組

### ① 中期事業計画と財政基盤

法人運営を順調に進め、財政基盤を安定したものとするため、中長期計画を策定し、教育の質の向上を図り学生の確保につないでいく必要がある。

### ② 学校運営

教員と職員が連携し、全職員が参加する職員会議（毎月1回）では、教育に関わる事項だけではなく学校運営に関わる事項に関する報告・協議等が行われ、教職員の共通理解を図っている。また、学校評価を教職員で取り組んでいるが、学校運営に必要な知識・技能の向上に努める必要がある。

業務分担、責任体制を随時見直しながら学校運営に必要な知識・技能を習得する機会について検討していく。理事会、学校関係者会議、市町村会などの意

見を聞きながら学校運営の適正な評価を行っていく。

### ③ 学校評価の実施改善活動

学校評価は教職員全員で取り組んでおり、評価結果を共有するとともに改善計画を作成し中間評価を行っている。中間評価は改善計画の進捗状態を確認するとともに教職員間の共有を図るために重要であり、継続的に行う必要がある。

これまで実施してきた学校評価の項目等を見直しながら、情報整理し文科省が示すガイドラインに沿った学校評価を行い学校の運営やその改善・向上に活用したい。

### ④ 社会からの理解と情報の公表

学校の教育活動について、さらに積極的に公表し、学校及び介護福祉士の魅力を発信し社会からの理解を深めてもらう必要がある。

学校の運営状況、教育活動については、情報の発信さらに積極的に公表し、学校及び介護福祉士の魅力を発信し社会からの理解を深めてもらう必要がある（高校、中学校との連携による出前講座を継続して、本校と介護に対する理解を深めてもらうとともに、ホームページや進路サイトなど Web の積極的な活用を図り、介護に興味を持っている学生に届く広報活動が必要である。）

また、市町村からの理解が得られるよう、継続して運営状況等を報告し意見を伺っていく。

## 【委員からの意見・評価】

### 1 教育理念・目的・目標

特に意見なし

### 2 教育課程、教育の実施、学修成果

・自己評価が「2」となっているが、評価は何段階で行っているのか→これまでの学校評価は5段階であったが、文科省のガイドラインの改正に合わせ3段階としたと説明。→教育の実施等適正に行っているため評価「3」でもよいのではないか

・留学生の対応は、国民性の違いもあり苦勞されていると感じた。日本語の授業に対応することも大変だと感じた。

・委員の施設でも外国人を受け入れているが、仕事自体は問題なく、体調が悪いなどなければ休むこともない状況。また、当施設でも実習生を受け入れていることから、実習指導者によって評価にばらつきがあるとの報告を受け、施設側、職員側の主観も出てくると感じる。さらに評価によっては学生からの問い合わせもあるとの報告を受けて、どういった学生からの問い合わせなのかとの質問があった。→概ね社会人から上がってきて、自分は努力したつもりだが、なぜこのような評価なのかといったもの。評価に関しては、評価も評価項目に

沿ってやっていて、する合わせも行っている、また、施設側の評価だけではなく、学校側での評価も行っていると報告する。

### 3 学生の受け入れ、学生支援

・とても重要な項目であると感じた、ここも自己評価がきつuitと感じた。独自の取り組みなどあれば「3」でもよいのではないか。工夫ある対応をしていることをみれば、十分に基準を満たしていると感じた。

### 4 教育実施組織・教員

・講師をすると評価いただくが、自己研鑽になると思う。厳しい意見も出るのかという質問に、厳しい意見もあるがそこは自分で授業をしても気になるところであったりするため、学生に書いてもらうことで反省になる。しかし、学生も気を使うのか悪く書く人は少ないと報告する

・授業だけではなく普段の生活でのかかわりも含めた学生の評価になっているのかと思うと「3」でよい

### 5 教育環境

特に意見なし

### 6 教育活動の基盤と改善・向上の取り組み

現状と今後の方向性について説明いただいたが特に意見なし。自己評価や題三者評価は大変であるが、見直すチャンスでもあるのでさらなる改善に取り組んでほしい。財務の件では、福祉人材を育成する資源なのでこういった機関が重要なので頑張って存続してもらいたいと考えている。

### 【その他学校から】

評価を受けるだけではなく、学校の改善につながるよう努力したい

令和8年度の重点目標である、1の国家試験の合格率は、今年度は全国平均を上回る合格率であった。8年度も全国平均を上回る合格率を目指す。2の学生確保に関しては、最低でも15人を目指していきたい。3の就職内定率100%は今後も継続させたい。4の開校10周年記念事業においては、次年度の文化祭の中で企画していきたいと考えている。